芭蕉堂三代發句集

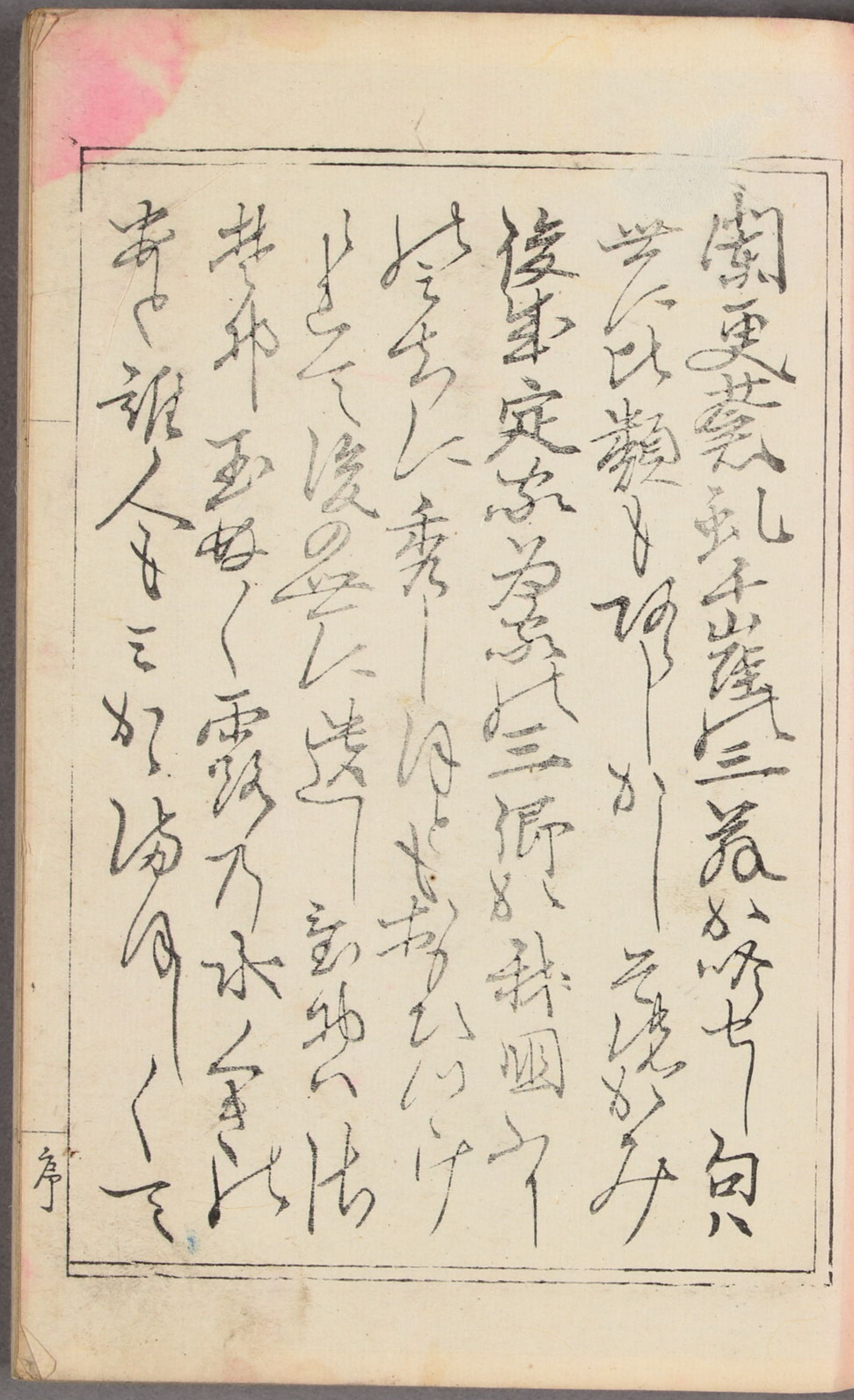
乾

蘭更翁
蒼虬翁
千崖翁

芭蕉堂三代發句集

全部二冊

南無庵藏版



芭蕉堂ノ三代集ヲ編ス

安政六未霜降日

保寶

高松從三位保實卿

芭蕉堂主圃更先生之像

金水東山敬亮摹

加

李下畫

養虬成田翁肖像

佐渠千歳翁肖像

凡例

蘭史翁一世の作い諸家の編集及
句帳に漏されしものをあまたに出して
是非ともこれに撰集あるべきものを
蒼海翁ハ発句撰集あるべきものを出し
基として其協乃作彼是を出し
詠ぜ出せしこれハ翁の生前より集置
もつてふるいわゆる独りおのれの出され
ざる句集書籍おのづからこれに按合せ

ひとつとなりたるものを改
正して出す
千崖翁生涯行脚せられ
諸国に散在せるる句をおのづから
集ぬるを遑ひまなくして止
おのれを拾ひ又諸集に見えるも
所作なりといつるの粕あるを
句はおのづからあるを遺恨おのづに
三翁の句く異同はもつとも俳諧
素人の家にとりつるを前

案再考社をうひさしうまゝされハ俳
句に是とおりふしうるを載きゝ俳筆
社詞もあるへきわるを見るへらねを正
半ゐうまゝ書きうまゝを廣幾也

芭蕉堂三代發句集春之部

洛東　公成輯
皇都　何羨
大和　可成　校

正月

正月や女笛社のさゝめ　蘭更
正月もうるはしき人古し　〃
正月や都の法もうるはしく松の高　〃
正月おゝ丁見うるは下河原　〃
正月や皮足袋ゐる嵯峨のさま　〃
正月や藤をのもうる果ふくろ　〃

[illegible]

元日

元日や松籟ゆるる山の雪　蓼虫

元日やうらのつゝろみて世を居しし　〃

元日やおもしの時の新茶　〃

元日や晴れたるひろし山　蓼虫

元朝やすつきたゝしき食　〃

元日もゝらや桜の夕こゝろ　〃

元日や旅人通る日本橋　〃

元日や湖水をゝ氷の海　千崖

今朝春

古稀社歌をゝさゝぐ

ひゝらぎもゝつゝ春の雪　蓼虫

明春

宗徳の茶碗を出す

先明てたのゝあるよゝ仁保の奥　〃

ちゝい火をせぬゝゝ也庵の春　〃

四方春

ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高田社[illegible]

[illegible]

[illegible]

初鶯

[illegible]

森の[illegible]

恵方

[illegible]

[illegible]

松飾　[illegible]

[illegible]

福寿草

[illegible]

蓬莱

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たちもとめるこゝろ一日も
御慶
おのゝ志賀のあけぐれの雪
古へのおもかげまつ春の月
雪あるもてこそ永き世なれ
萬歳
雪ゆゑのみ千代の鶴を夫
雪の宿の鳥帽子さけば夕ぐれ
万年の酒もて鼓うちてむ角の宮
雪ゆゑ酒ゝうゑを知恩院
はんさんの作法あるあふぐ

雪ゆゑ
雪ゆゑもこゝ万年の春の峰
万年の酒のかゝしも雪の杉
万年の鶴を通ふ雪の山
雪ゆゑ酒ゝうゑてたゝくゝ鶴
松ゝけやはんさんの作
雪降
おきゝうに雪ふけある二ゝ
子日
君ゝ多れ松ゝ子ゝ
西東ゝ多ゝ多ゝ
ちさゝ松ゝ松ゝ子ゝ

[illegible]

小松引

[illegible]世先を結び松引[illegible]　蓼虫

ちゝまつとゝ[illegible]を立て小松曳　〃

蓼菜

とく[illegible]も[illegible]れ[illegible]蓼[illegible]　蓼丈

蓼[illegible]も[illegible]蓼引[illegible]上　〃

笹[illegible]も[illegible]蓼の[illegible]　〃

たゝ[illegible]おの[illegible]　蓼虫

蓼[illegible]下[illegible]蓼　〃

[illegible]松風[illegible]蓼[illegible]　〃

[illegible]先[illegible]蓼つ[illegible]　〃

[illegible]け[illegible]蓼[illegible]　〃

蕣

とく起[illegible]蕾[illegible]　蓼丈

[illegible]戸[illegible]蕾[illegible]　蓼虫

甚五郎[illegible]蕾[illegible]　〃

[illegible]蕾[illegible]　〃

[illegible]の[illegible]蕾　〃

[illegible]の蕾[illegible]　子蕙

爆竹

四隅[illegible]田[illegible]爆[illegible]　〃

年あるようなる海の出来てうんとかい
鶏ふるゝ出て遠くみてみるとんとぶ　〃

藪入

藪入はふるゝよりまてまつうつう　冥途
やぶ入や色梅はうつくしき花よ　蕪村
義太夫をうたわれぬ梅ぶ　〃
義太夫はまて通ふ　吉榎　〃

餘寒

松はさりたるよあるの條きぶ　〃
孫達負ふ色隠さるの栗丸ち　〃
ちつとうてあるの家きの杉梅　〃

棒樫は塩きてある條きぶ　〃
寺〃の時〃都は家〃ぶ　〃
抜きてあるの色家きの隠ふ藤　ふ雇
上根なる海〃小ぶ條きぶ　〃
四一枚引てあるようんぶ　〃
ひまるは地ふ鳴まの家きふる　茶飢

霞

海のは半月ふ霞ふすみ　冥途
山ふあ〃はふんふのみのもつへぶ　〃
南無菴眺望
うちはふん都なりはうる〃　〃

[illegible]や梅は桂の[illegible]氣
[illegible]の[illegible]四一枝[illegible]こうきこと[illegible]
[illegible]
[illegible]棹の[illegible]
人の[illegible]
小橋[illegible]
[illegible]
[illegible]馬の[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]一[illegible]犬[illegible]
大仏[illegible]風[illegible]

春風

春風[illegible]東山[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]　　〃

東風

東風吹やふきつる田中の温泉　　〃

東風ふくや野の霞ゆく田の四隅　　子雄

春雨

春雨やのらくら猫の笠　　冥史

くはさくらや土ひらひらの山　　〃

春雨や弥生ながらの花ひらく　　〃

春雨や老ひは傀儡師　　〃

春雨や伊勢海老焼く茶の中　　〃

春雨や酒のうるうる五湖紀者　　〃

春雨やふるふる鉢たゝき　　〃

春雨や寒ひ寒ひ寒ひ寒ひ　　〃

春雨や敲きつゝ家中町　　〃

春雨や紙衣をきつる敦比丘尼　　〃

素州子行きて

春雨や老ひるハ嬉ゝ眠るまゝ　　〃

春雨や小川はうつる白柏　　〃

河法師に仮ハ猫うまのる　　冥虹

春雨や嵐の吉野法隆寺　〃

まちうけや山路入れて鶯の巣　〃

ひまあけてやうたれおるまきの雨　〃

春雨や大和路まきも緑青状　〃

菜畑や物語りのうみ蛍もとこ　〃

まきの雨うたれて見へうつ　子崖

春雪

都辺や小鰐まうる春雪　寒更

まちもまうもむ雪の田雨ぶ　〃

日晴てい鶯うたれまきの雪　〃

まちの雪仰向うちの馳うち　〃

紙流社会元まゆる春の雪　〃

降りうつふ消うつり春の雪　〃

めうも紫の雪うつゆまうの雪　巻帀

巻雪れまうもてうつゆまの雪　〃

消雪も落巻うつ小鞠ノ理雪　〃

雪解

白波とふうり磯の雪ぶ雨　冥交

雪解とも注来波聖外ぶ　〃

雪消し巻一すれ巻雨うれ　〃

芽とゆる波消うる聖門ぶ　〃

陽能

陽炎や蜻蛉の羽の薄すぎて　蕉雨

陽炎や蜻蛉の羽の薄すぎて　蕉雨

陽炎や蜻蛉の羽の薄すぎて　蕉雨

[illegible]　　冨更
[illegible]　　〃
[illegible]　　春の月　　[illegible]
[illegible]　　〃
[illegible]　　〃
[illegible]　　〃

梅うゑもおりのうちあるべけれ　冥更

梅さくやもゝ義よ梅さくら　炭たくら

山茶や樽の中うゝめの花

打ふくも鬼もふくせを梅の

彩の梅イい犬　野ゝ人

日の影や氣内ゆゝお梅うゝ

折ゝまるも詩を梅の森えん梅白ふ

梅咲て門も海老やく白ゝ

卧龍梅

角たゝまりて香ゝ眠ゝ梅の姿ゝ

瘦梅　北片枝さけを華の形

梅うゑもゝ髮梅ゝゝ新ゝゝ

文打ゝゝゝゝゝ梅ゝ

香ゝ酸ゝ紬ゝ梅ゝ林ゝ新

梅ゝ香ゝ梅ゝゝゝ佛

梅ゝゝ地ゝ入雪の手ゝ

山里ゝ人肥ゝ梅ゝゝ

梅ゝゝゝ梅ゝゝ東の

芭蕉翁係前

梅ゝ香ゝ仰く翁の江中ゝ

百姓ゝゝゝ醸酸裏の指

豆腐ゝ梅ゝ香ゝゝ酒一壺

[illegible]

梅こうの[illegible]

病中の吟

疫骨に梅うつるかあらぶ

夕雲や阿蘇の梅の月

有朱の月清て雪の白うん

雪中に和も生きこの梅の月

梅の月梅ちるとかけて松の月

梅の月月の外ちるおのれ山の

梅の月白ひつかりてくもりうす

うの月月の中にれれる春うれ

梅の月

梅の月ふるまあるかすみ

山の月きうりうもうのれ

雲の月

雲のうの朱おの一里ちるとこ

人のうんうう表ちうの吟の梅

吉野ちまりあるの梅

梅吟や庵のうるうるの梅花

庵ちうちうさハうちうふあ

ちうあさハ庵の雪の吟

中ちんの朝梅一二ちう吟ちうう

山里や梅の吟ちるもまれハうう

大り枝やより枝の下の梅みも
おりけるく人呼てみるおもうふ
焼まがもをうく名もの梅のもと
おるを除くと流もあるもう頃の梅
大きよ迫ふくるもう名の花
山男や志く梅おし家まこし
白くめもまと風あぶ紀岩の沼連
まのまくくかくもう梅の花
様くまもを石のタ名生くもを
山ひくう新くとくもう梅花
海て来く所もくもう梅のもと

うくを社めくつ東也梅の花
迫おを海ハくよまくめ里の梅
梅林あをいくうくはうくれど
志く梅を清も山ほくまを急
方来指て通るもくおおく人
梅ひく来夕山迫くくんすくし
くを死社くおるかくをめくくを
山男もくくくを梅の花
梅いくもかこ清の宝海はく
まん中く志まるくるもう梅のもと
菊川も名を石くくめの花

[illegible] 唯の梅

西院の梅西月[illegible]

[illegible] 梅の花

梅の雪のあくまでいろの[illegible]

[illegible]名所観月[illegible] 梅華

月の光は梅地を[illegible]

[illegible]

[illegible]

河の[illegible]かは[illegible] 梅ちる

世の中[illegible]ハ[illegible]月と梅

[illegible]月と梅

[illegible]月と梅

[illegible]て田中社月と梅　子嵐
[illegible]梅の花　梅の花
[illegible]
[illegible]梅花
[illegible]
[illegible]梅花
[illegible]梅の花
[illegible]梅花
[illegible]梅　[illegible]
おとつひの雪ハ忘れて　梅花
[illegible]東社の宮あくてうめの花
梅[illegible]咲て[illegible]
兄等う梅[illegible]

[illegible]梅花
[illegible]梅[illegible]
[illegible]梅盗
[illegible]梅[illegible]　[illegible]
[illegible]梅　梅
[illegible]梅　[illegible]

柳

[illegible]柳も破[illegible]の[illegible]門[illegible]
[illegible]人社拉[illegible]梅[illegible]
舟[illegible]の柳[illegible]
[illegible]舟[illegible]江の柳

こもりの柳吟詠の風情なれ
ども事毛柳一本むらもりなれ
ども引出山とてきふ柳なれ
白波也岩の柳おもしろき合
詠庵て柳うの中を灯のともし
坂おもしろ中柳ことり立
柳のもとも柳の中おもしろきや
水中に神る柳の下うら経
煙帯て和村の柳は岩うら
原中や柳の上おもしろ動く
動くもに岩ふ動ふおもしろ事じ

年ふる村柳も事うる
そしのうら柳ふうふ牛の角
陸ふもふ柳ふ柳ふなの川ふ
火ふのこの海ふ柳ふる事うる
紫は曙さふ光て事柳
いふはあるふ柳ふもふる丹
ちふふもふ事ふ雫ふ柳ふ
子細ふ亜地ふ柳ふる事ふ
地嵐ふ玉ふ家ふ事ふ
隆あふ柳ふ柳ふ
青柳ふあふ家もせぬかふ

衣うけとやらにあるうら江の梅
はいさらさと枝ふるふまり門梅
かり細の雪とみるやまかぜの形
禅寺の雪ふる風に梅うか
林寺とはこころおもへと梅お
義朱を重ねたちまちまとる梅に
きまとはうら山陰きうまちの雪ふ
何はとも人のまこしやぬ雪お
姫ゝ梅ゝ梅雪ふるたまる梅に
はこのゝとはうきふ寺の雪ふ
葉梅てまこ清ておく梅ふ

百相鶯ふくさとそえける梅に
庭梅の香ふるこしは雪うま
咲ふるは風ふる梅ふるなるくに
一梅ふ雪梅ふるゆふ梅に
あゝ雪にはうきふ梅ふ
とまと果つゝふ糸梅

芳村氏の梅相ふさしふせ梅
のもうて老のふ

梅のゝふふおとふやしぬゝふふ
はくふ梅村ふふおくふ梅ふ
徹道ふうのあさとは雪に

雨ひくるおのの柳もあらそひて
をりをりはとすまさてよる柳かな　〃
百樹をそもよけて行春かな　子規
ちる柳ちるのをしまぬ白かな　〃
移文をもて世語ふる柳かな　〃
日ぬくうにある出るあるの柳かな　〃
春雨のふるふる柳かな　〃
をとをとおもひぬつけ春うれし　〃

椿

ぬきもせぬ椿よ入れば春椿　素堂
鈴ふれば二ぬふるうる蒼椿　蒼虎

春半ば花のおもかげ春椿　〃
移のやどりは下の椿かな　〃
ちる椿ちるふるふるふるふる　千明

若緑

ちるちるも夕山松のあらしかな　素堂
あらしふきちるちるの松のこゑかな　〃
苔ばかりあて緑ちるふるて松の花　〃
　蹴之ゥ歌六十の賀ゥ
ちるみちる松ちるれいきうれ　〃

若草

いろいろの白をちらちら若あり　〃

[illegible]

蕗薑　一玉変

[illegible]　蒼机

野大根

[illegible]　、

黄島

[illegible]　宋文

[illegible]　、

[illegible]　、

[illegible]

[illegible]　、　、　、　、　、　、　、　、　、　、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紫もさくらの安れ 峰つたひ
紫の川波の山とこ行く船
影あゆふ波やきくや朱雀に
うつろひて影さして来て源の入る
紫やふる郭こ船 鶴のうく
乙とは波 紫る うさぎ堤 うち舟
ちとのいと紫ふるうやの蛍
うつろひ来る 栖新ふる 春の雲

金昆羅山にて

紫も 緑 ふるう 末の写
紫ふる 地ふる 山路 千 唯

紫もおのゝ和 高を通りけ
紫もの ふるの 波 ふるの 土ふる 能
紫ふるの ふる ふる 和 子 二は
紫の ふるふる おふる 富ふる 能
柏 杞 紫の 末ふる 紫 紫の 紫ふる 匂ひ
ふて ふふる 紫ふる 町 ふる ふる
紫ふる ふる ふる あふる 水の 月

駒鳥

鶯 ふる 雪 ふる 日 能ふて ふる む 林 ふる 雲 更
ふふる ふる ふる 峰ふる 黄の 松

[illegible]

猫恋　芭蕉

[illegible]

猫の恋　[illegible]

[illegible]

猫の[illegible]　[illegible]

[illegible]

白魚　[illegible]

蛤　[illegible]先[illegible]

蛤　[illegible]

[illegible]　閑夏

鰕

夕川や鰕[illegible]

海苔

[illegible]

春日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春の日や稲荷山路ゆく　〃
ゆくさとくさの日の影中世の京　〃
春の雨宮雲をそそし池の月　〃
うつ張らむ頂のさびたる風　〃
拾葉人い苔も微雲の趣あり
を考して
春の雨苔むす趣る雲芝焚り　〃
生性の本性を探して　〃
春の雨凡るおそるべき庶さもあり　〃
両国あり遊水楊ゆて

橋もしく人多し密まりあり　〃
春の日や遥かに明るく見ゆ　〃

春水

殺ぐ水ゆくさとくさ苔むす水　冥更
あるはさ蔵を出るうまの水　〃
屋のあり柄杓ゆて春の水　〃
巨江遊ゆくさ
春水ゆくさはゆくさこの水　冥虹
ゆくさのある雪の部ゆる苔の水　〃
さ波なおゆ雨ある苔防水　〃
今ゆくさゆくさ春の水　〃

杜藻う江戸にてうをおろすを

うをうるゝ水海をすのそまの川　〃

春海

春の海ひのくれとなにおもふらん　〃

春山

又こゆとうり春の八重山　人もとゝめ　寒更

雲老寒ふるあるる音

春ぬしは脱ぬ春の霞山ぶし　〃

春野

鶯春紀ちかつや春の花四　〃

春の野のあるつゝみなるとゝ　〃

春宮

ぬるゝとは春ふる雨ふる春雨　〃

孟春雜

吉川の芹とは春の思　〃

桟谷寺と称ふ

多時て谷間の春の木立ふる　〃

四十賀

春の弱老の坂口ふゝあゝせ　〃

旅人は来初し里の春　〃

夫恋るつるさるあるう春の情　〃

初午

さらぬ中も淀も植る人の業
初夏や人の寄るべし　松　梅
初午　おのゝ淀　蓮根
彼岸
山里にゆゑ籠おける彼岸かな　寒帆
人寄るゝ中も彼岸の赤亀　々亀
涅槃
うゝ法世を出て弱に涅槃像　寒夏
古寺や淀の浦の絵人像
紙鳶
羽をあゝ鶯のるゝいとの糸

能月
築地より月ひゝるゝあるゝ月
掩月雲ゆくゝ月ゆくゝ
さゝ月ゝゝ梵論のゝゝ月
山の井ゝ月ゝゝ月　寒帆
山水ゝゝ月ゝゝ月
世の中ゝゝゝゝ月
引ゝゝゝゝ月
おぼゝ月寅の夏ゝ九條
朧夜
おゝゝゝゝゝ月ゝゝ月　寒夏

おほうちの池のとも屋の松
有明も残り淋しき夏の月
奥ふかく山下陰の篠の露

初櫻

一りの白のうつくしく咲て初櫻
もろくもあり人ふり捨櫻
月をうつす水の面に初櫻
見るもうれしき初さくら
答ふる花うつくしき初櫻
独あて人ふるやつれ櫻
うつさんと一ふく稼て直る雲

枝ぶりあるうつくしき初桜

初花

うつくしや花の中に犬の声
見る独ふるて

初花を梅のおくれて咲ぬ

初花の句作るうつむく

紅梅

紅梅も作るあるうつくしき
赤白しろ紅梅も花ぶりく

菜花

菜の花や遊女多き世の阪成

菜の花や月は東に日は西に　〃

あのもの西山ばかり夕陽哉　〃

あれまくまにくるしと入る日哉　蕪村

菜の花をけしとふりゆく松の風　〃

菜の花をわくるやくるの絡もとり　〃

菜の花やおもの書ハ踏を換　手帖

田畑

畑打も今を盛りの田物哉　案更

そそくさは根を延るや田打哉　〃

畑打ハ風つよく合羽日暮哉　蕪村

菜花

川中島

川島や菜花そそぐ日の斜　園更

燒野

川動てそのの尺てある焼野哉　〃

野焼の火ハ西に走て初る　〃

歸雁

引雁の絡もつれて東西　〃

物をむしる蔦人いつの春のし　〃

行くくしら海見てゐる春の雁　〃

堅田にて故郷の雁を思ふ

病雁も独りて春の淋しうな　〃

浦の秋を秋とも見せぬ海士の塩焼　蓼白

只ひとつ月をもつかぬ夏の山　〃

小ぶねもをさをさ出さぬ海の夏　子羅

寄書の花　〃

引鶴

引鶴は春をもつかぬ鶴なれば　寒丈

さし汐や霧あけぬ中を鶴鳴て　〃

乙鳥

はるをしらぬ白波の中をもとりて　〃

雑子

草ゑたる弱あをうん雑子　〃

午時華

ひるをもつかぬ花の日を忘れ　寒夏

豆腐やの花吸ふ蜂の昼こうて　〃

豆腐屋の日よりをもつかぬ花の　〃

豆腐屋の花をしらぬ磯おこうぶし　寒丸

豆腐屋の花をしらぬ米売　〃

麻

右左四角ニ麻ヲ植ル　家更

青田

のどかあるうるはしく田うえ　同

山本石ゑなる和孫を祝して

ゆたかなるさな田の中も　〃

綿花

毋酒盃に綿の花のうかぶ　家更

凌霄

凌霄も水ふる川とうるる日に　春弘

百日紅

紅帽も蕣も共に清ら〳〵咲　〃

面白き清ら〳〵声鶯　〃

明光のうるはしきあるに碓の音　〃

夏ふかし明るし山ずりめきしの色　〃

夏ふるも金魚打出きし鶯　〃

大阪も小阪も鶯子の十重　〃

十重に鶯も金魚の中にうるんだ　〃

深ふるうるはしうるきしの色　〃

澄つるあるに入まくるうるはしの色　〃

荊あるに花咲くうるはしの色　〃

新ずまに紅薔薇も紅の色　〃

新あるしも水のうるく　子崖

雲雀

鳥巣

名こそ降しんん

雪の名ものも花を裏れ山辺うん
鳥の巣石間の水のうつるかな
雪に笑ふ花の色雀あり

蝶

和蝶や出し杖ものとうたはれ
風出て蝶に出て鳥ものに飛鳥
あくまなるうつ仲の巣を蝶
ぬるとうとうるもやれてよれ羽
蝶とうも小狐くるよ巣の原
日のうしけも枕をる蝶を遠角

川波もあやふく翅は蝶のあり
そらのうつ出る巣の蝶花れふ

荘子説

たくさん形ふ巣のうつ蝶の色い蝶
面れ蝶を物をよ花るうふ
本はうり形肩のあるも形ん蝶
紙板れうら裏もし小蝶うを
おのくれうるうふん蝶

蜂

六尺れ人馬ふ蜂のううれ
仏ふ蜂も巳う蜂めもううえん

蛙

月乃東西有りの方に蛙
山中に盛に鳴く蛙
若しかたて鳴くこゑ鶯の如
鳴くらく蛙なきつはみりる
蛙峰の田に水くこく月あかれ
夕雨に雲の田に落るふる音
山もとに蛙ふくはもかの写
出し蛙なりけり蛙鳴れ
今さを出しやしと蛙の
蛙を串さきてもく蛙

新田に蛙の上みふしうるら
蛙なく柳田に柳は橋の屋
仮枕屋のうちに蛙
ふるさとに蛙峰に蛙の写
立ちまわる杉に月あかに蛙
ゆくさかりも古屋の下に蛙の
屋に田もよりうらに
所水に田よりぬ蛙
松の根に引うつふく蛙
ふるさとに蛙の田の蛙
屋のうちに蛙の蛙

夕立や蝉の鳴ぬる庵　〃
いなづまの光を見てのうつるかな　〃
ちらちらと出る所に蝉化　〃

地蔵出

今出し地蔵はいとも蓮の中　蘭夏

鹿角蕗

蕗てあるる角ほくく女鹿化　〃

鶯鳴

梅ゝ枝に鶯ぬる鶯化

蒲生

大仏ちらほら陽生　宝夏

陽生

降るのあるる又降らん陽生山　〃

潮干

三月波三度入こるる潮　〃

松の穿るるの跡も見へし　宝化

大も出る海の川ちらちら　〃

雛

神代よりさかさまにてこの人雛　宝夏

紙ちらてちらひ雛社ちり　〃

跳ちる形よ二月社雛ちらこる化

雛あるる出る寺社雛化　〃

梨の実ちりけるいとあはれ　春也

あら磯なる船の舷つく蛙の聲　〃

男多くこの山籠りの乳さん　〃

籬柵ろくよりおかふ柏原ナ明石　千雀

草餅

ほさもしろや博士先生の餅　春也

櫻

櫻咲こゝをそ和国のくに　軍更

入山おもそらる櫻ふ　〃

俳車も櫻ふ下れ生の琴　〃

櫻をそけるこゝ櫻ふ櫻ふ人　〃

世を捨る山ふけもみよきをふる哉　〃

ひろ沙ふる櫻ふ　むをそ　嵐ふ　〃

酔さめて　郭ふ月の山ふ　〃

ふさ川ふもの櫻ふ白柏子　〃

保山もさふふ　ふ　〃

雨のる　も櫻人越るきふふ　〃

さふふ粉ふ　ふる見ふ　都ふ　〃

知ふ　ふふふふ　〃

町中ふ櫻　分入也知君院　〃

俳　ふふふて　二句

舟改島ふ人ふふふふ心ふ　〃

[illegible]
馬より[illegible]人[illegible]
山[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
散[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
入[illegible]

[illegible]
山[illegible]
松[illegible]
[illegible]
[illegible]
家[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花咲て千代経ぬ古と赤裳ぬく
ふるゝも老ぬ袖まとる程ぞ
清水の
花ぞ散いのちとあらそふ世なれば
花頂山の
花ぞ散る野辺の草ぞ刈て咲まる
さゝめも花供養いとまなく
法ゝ居て発の日数花法ゝ
故郷の
御て法ゝ吹入る四方の春
つゝさ杉ゝ居ぬ

花に色を与へてあるまうう
このねゝ法ゝ
花ぞ法ゝ法ゝ
卿下清風ゝ海の底
ゝ蓄坡君と携少車 蓋を傾
道のゝ花ゝ嶽ゝ形ゝ岩まゝ
いゝゝゝ見ゝゝ花ゝ二ゝ
桃里高ゝ杖ゝ
留ゝ来ゝ居ゝ
極楽一周忌
一年の

留別

いとせうも魂をもとどめてし

七十賀

百とせを経てあしし花の枝

移りてこそ花の表只こそ

わさしかをしほの花のさかりに

色まさりし花の海山

新たなる花の上

鶯のこそ来つるとみてしよりあれ

春花の下に異流あるを小義に

人おもふ花の編を石にうつし

翌て花はさそはれてこそ

もとのあるかのふるさとに

うの花をもとめて

花もまて頃をよもの花見哉

花は春こそ来つ

病后の枝を曳て

たのしさ色をこそ良も一ちゆり

朝の花見ん疾起に未毋ども

もハおもてもとこそ

菩提寺と金剛寺に花見に

よく来るものを物を修行の

つゆ[illegible]と[illegible]人南溪の[illegible]

江中おくれ

湖辺にて門弟[illegible]の[illegible]

岱里三若[illegible]

伊勢の花ふる[illegible]桜もとゝけたよ

[illegible]

百年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

散[illegible]あ[illegible]花いちしと思ひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花ハらの笈ヨりこつまちを出家こゝろ　〃

八十二歳自寿

花よりも退屈しのぎ歌うゆめ　〃

ゆくとしの春を入出は小風ぶ　千崖

ちもゝわをもしもあぬ生死ぶ　〃

所ひゝ蕎麦うゝ庵ハ花ゝ入ぶ　〃

草汁ぎく人ゆまゝ色の宿　〃

水ゆゝ花のあゝを拭ゆゝら　〃

桃

桃のゝ実もゆゝ赤ゝ　実夏

待を師は吹芦ゝ早ゝ苗ぬ桃の家　〃

岩戸のゝ月ゝ　〃

あゝゝ家に桃の花　〃

ゆゝ月ゝ雨のゝ桃ゝ　〃

ゆゝ月ゝ雨のゝ桃ゝ　〃

ゆゝ月ゝ雨のゝ桃ゝ　〃

ゆゝ月ゝ雨のゝ桃ゝ　〃

海棠

海棠や戸ゝ　実夏

ゝゝ月ゝ梨一本ゝ　〃

躑躅

ゝゝ山の岩つし　〃

名山を根こそぎ切りたる清しかな　〃

連翹

連翹のもとおろおろあるその陰　芝化

連翹よさいらうそうの産うまし　〃

蕗

岩そそぐ五六すぢの蕗の花　春更

二柳黄と云ふも

蕗そそぐ蕗山吹の谷の中　芝化

山吹

山吹や流れ流れて流れの花の影　春更

やまぶきやふるそうの奥もみど　〃

山吹はあのあの下ゆく芹の香　〃

山吹や蕗おく陰に衣　〃

蕗こぼれ山吹の奥の梅の水　芝化

山吹や仲を年貢のひとり生所　〃

いかりかすかすかす

むらさき袖うちめした草鞋　春帆

草

うすらうすらとあるは西にかたむく　軍更

草の形もいまは朝のまま　〃

ぬしや袋掛ぐうらうらと草のこと　〃

ちらちらと草の新芽の西にうつる　春帆

春くくくく

伐倒す梅白いろうまちたち　〃

朝陽亭にて

ちらうめ花の木のもとうもれうそ　千岸

行春

ちるこしい花はさらさらと降人

おらひいろはこうちそやうあきまこ

ちくさ大堀川の流ハ千年ちれ又これ

白くさちる筏のうくこうちうちう　芙巳

安良比祭

祭うれ花ちるもきくと降ふん　東定

晩春雜

春の林多うちはふるうう　〃

田樂こ土焦しうう　〃

大淀陰に鬼も俳ふ　〃

うらの門に梅木屋白ル　〃

不二こう東雲ハ去出ル　〃

芭蕉堂三代發句集夏之部

洛東　公成輯
皇都　杜哺　校
摂津　花蕉

四月

蚊のなくもうつ心なき四月かな　園更
うぐひすのこゑとまりぬる四月かな　〃
九日は躑躅さかりの四月かな　〃
花すすきの佛ぬかるうつまれ　〃
ゆくゝしとうんはや四月の嵐山　蒼虬
山ばのおとなきそめて四月雪　〃

ゆきとめぬ小村の雪も和月北
松ゝ雪は世界まつしの自然

去年は高野の東武あそびて
半ゝひるもつゝゝいこうゝゝ
ゝゝ人ゝにいるとうゝ候由
ふゝに世ゝまつて

杖ゝゝゝ

紙帳

蚊帳

團扇

江戸時代歩行する人々の姿

草養ようちゐあう大きなる太郎
冠者とよびいふまる所次郎冠者
と伴ふ〻〻法ぬる机辺をまもられ
もてひんてふ

山出るふるくりて来こせ　一

夏月

網もなく魚社出るやうや夏の月　実更
夏の月陸の高出陸の月は　〃
水出は雲の峯をうう夏の月　〃
ふくさとる川うう夏社月　〃

待る月も出もうん夏乃風　〃
夏のあの白雲うう雲の月出る所　〃
夏の月むさと蔦うる松ら岡　実秋
小原風のうんて山家の夏の月　〃
松ゆうてあるうれをし夏の月　〃

夏山

大木もうんてもうう夏社山　実更
甲斐の白根
百里来し甲斐みを夏の白根　〃
夏うを拾ひのるを社陸写山　〃
松杉社待ふうをうう夏の山　〃

たくひふく夏の山はをえらひ
夏山やもの大きなる蝉　千崖

夏海　　秋之元

秋さくはるてくしの海あらし　宋文

夏川

夏川や蛙なきたる松おくをらしし　〃

夏川や山を海へ出て物語　〃

夏川や船を引くしろ白く　女

牡丹

花をなみけるもうつむく牡丹かな　〃

白牡丹たく一ほんはさうかな　〃

白牡丹暮はくれの行ゆくえ　〃

古傳や昔を語る庵のあるじ　美北

花のもの二丁もるるて牡丹寺　〃

あるもうるあるあるあるある牡丹の一本　〃

蕣子花

廣津や一筋えんやはうつる　〃

蕣子や雨中のそらはれ　〃

ちりぬ夕のそらぬ花ちるあるむ　〃

みしう和尚花は咲うの花つる　〃

松うえを雲をうえをうえをなる　〃

枝木を拾ひ中やすまつけて
山路も　いろもかわらぬ　草の色
うすきつぼみ　ゆふ　ゆふ　ゆふ
花　花　花　花　花　花　花　花
夕　今　昔　草の葉の露
草の　梅　草の葉
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
虎杖　千崖

嬰疋　栗

二ツ　芥子　弱法師　軍史
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

白芥子　白　白　白　白　白　白　白
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
伊勢　伊勢　伊勢　伊勢　伊勢　伊勢　伊勢
日　日　日　日　日　日　日　日
け　け　け　け　け　け　け　け
夕　夕　夕　夕　夕　夕　夕　夕
碓　碓　碓　碓　碓　碓　碓　碓
地蔵　地蔵　地蔵　地蔵　地蔵　地蔵　地蔵　地蔵
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
芥子の　芥子の　芥子の　芥子の　芥子の　芥子の　芥子の　芥子の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

先師二十五回忌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千崖

[illegible]

[illegible]

葵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

空豆花

世をのがれ[illegible]

城阿夫婦[illegible]

[illegible]

蕗

旅行

山うけもし[illegible]

望[illegible]

夏草

[illegible]

奈古瞰[illegible]

[illegible]

川中島

川[illegible]

先師[illegible]

一枝の[illegible]

[illegible]

[illegible]

麥

麦の[illegible]

朝辺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

川筋や秋の蛍のはなれ蛍　千峰

若葉

流れ来るまきの若葉の若葉哉　若葉更

捧実て猿人生れけり哉　若葉哉

嵯峨大悲閣にて

一りれこゝろもとにほるゝあやめ哉　〃

ゝゝ山の葉の葉哉　〃

高先に一法くまなし若葉哉　〃

ゝゝ形なるよ美濃の家　〃

鶯を出るせうとめ哉　子峰

新樹

茂

鶯鳥はつゝ里と成る所樹哉　蓼也

ゆる御ふるゝ人ある所樹哉　〃

こゝ自然ちよつとさゝある所樹哉　〃

りのもゝ之ゝ秋の新樹哉　〃

世ゝゝゝゝあゝ村の樹哉　〃

白山奉納

秋の花ゝの樹ゝゝゝゝ雪　雪更

雪のやゝ日

燒捨てゝ花ゝ義ゝ哉　〃

夏木立

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

病葉

日光のくまなはうりの大路を
つくむ

あれ行くまことにたもとをとるかな　玉更

若楓

吉井あて人のくるまの楓　[illegible]

春峯らの在にて

[illegible]

錦供菩薩と立たるうるの楓

[illegible]

[illegible]

桐花

一里ゐくるうるんうて桐の花

卯花

卯の花や蕎麦ようんあはは小家

卯の花やとくもたれるも垣の際

うの花は四月ハ四しかるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家のうちをとこもすむ年の時雨
かれぬまきはふるてさくらの花の海
偏知は海さをあくやろうそく
志のひまもなく人よ雪 琵
曙や一不二さわてわくかん
先うやるる梅うてほうとに
面とき屋おうれるやり小菊 翁
奥山や苔ちるまに 杜宇
面おいのおとこいとも 時雨
わとまき神とうきし雲沈む
面ときにうや海うの古梅子

時雨おあひさるかて庵よりの雪
杜宇自れうのうるやとほうも
る知ふくまるうれてひうし 吹

病中

家行る冥途の雲もまし
ぬくうつうち陣情の伝わとまに 雪
雪はれ杜の大きもも 時雨
保ふきき夜も鶴ふ郭の
ひうあし静まるや江の時雨
る知あくも あ汐のひとうと
わくきに立所の月 雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

杜鵑　松風　吉野　雨吉野

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

諫鼓鳥 臥うら吾よりう 楷の奥 〃

宋吉

病中うちはあるまもあて寄あへ

出る紛るるうを来侍るうん 宋吉

人のいとなちひさくもあて宋吉 蕁虻

なるふるよぬ時のゆみの中宋吉

宋吉るるふくも梅原は時遥し 〃

宋吉鳥とる山うれ 晨の月 〃

日はさもちを丹こうまこう 〃

はは里も年寄 角一うもこう 〃

まうもちもそれ時ゆて宋吉 〃

ひううう山を時うんこう 〃

宋吉 子咲

日も毛元頂上梅原宋吉

行こう

見ううむ仲みも形うう 宋吉

寄 蕁

老てのち茅うる池を出うう 子晃

鶏 飼

はくうしと形のうう角の鶏 宋吉

形の角に川はうう火氣うん 〃

宋吉うう形の寄もう 〃

落ちてゆくもの松ふかく緑の海　蒼乎
山風もちからとしてとんでゆくのうら　〃
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

蝸牛

[illegible]扇を掲[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

牧遺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

葵祭

[illegible]

神の葵 [illegible]

鰰

[illegible]

五月

[illegible]

[illegible] 又の [illegible] 五月 [illegible]

山寺も [illegible]

五月雨

五月 [illegible] 一筋 [illegible] 沖の水

[illegible] 瓶の [illegible] 古菖蒲

五月 [illegible] 芦丈 [illegible]

五月 [illegible] 居し [illegible]

五月 [illegible] 汐

[illegible] 山の [illegible]

五月 [illegible] 枕 [illegible] 雫の [illegible]

[illegible] 紙の [illegible]

病中

やもめゐて秋ふかおもふ皐月雨　〃

職

ゆうれいまものほうふへれ烏　〃

椶

夏中青句

分別し無をちからに尺ゐ夕ゐ　〃

りうきあるもけも椶の新似　〃

菖蒲

十年ぶりやいつこれあやめ草　〃

四はけも白いふきこゝりあやめの日　〃

姉うりを洗ふてきるあやめの日　〃

分別ゐるひやもの彩よてうりん　〃

影宿しふくこらつまるあやめ哉　〃

花ふかて菖蒲さし赤ゐ　〃

杉ゐうさうきわゐ菖蒲ふきこゝ尼　〃

香ゐるゐてゐうきこゝふのいやゐ　〃

あいさつもあやめ屋を拭ひこゝう　〃

躑躅

椶ゐるひこゝつ雪ゐゐひこゝの蕉　〃

百合

星の夜も月夜百合の姿うん　〃

[illegible]の姿をあらわす

倚母草　百合科の多年草　根茎は

百合　代表的な百合の花　春夏

先祖三十三回忌

めさまし花　夏の夕方にあらわす　しゅう

紅花

紅の木　紅の木　夏

萱草

忘れ草　忘れ草　しゅう

夏野草　夏の野草　しゅう

藻花

藻の花　水草　秋

萍花

[illegible]の中の[illegible]

繁陽花

[illegible]　秋　しゅう

あさがほ　朝顔　秋

[illegible]　秋　しゅう

[illegible]　秋　しゅう

あさがほ　朝顔　秋

[illegible]　秋　しゅう

合歓花

[illegible]　夏　しゅう

[illegible]

○合歓さくも [illegible]の [illegible]の [illegible]の [illegible]

青梅　　[illegible]更

[illegible]梅も月の [illegible]

若竹　　[illegible]

[illegible]竹も月と [illegible]

[illegible]竹も今 [illegible]

[illegible]竹も [illegible]

[illegible]竹も [illegible]

[illegible]竹の [illegible]

四

田植　　[illegible]更

田植 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

早乙女

[illegible]

茄子

[illegible]

蟬　　[illegible]

初蛍の[illegible]
[illegible]
[illegible]
蟬[illegible]
蛍[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
蟬の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
蟬[illegible]

水

雞

敲くとも[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

火串

角も見もなさこそ長ふるなり串だ　園実

曝さて ちるもうれ入ほそしうれ　〃

松のそふのちるこそ梅なる串だ　〃

六月

六月や雲ふれまゆるほそる富士　〃

草はかれて

六月もいるふるふる温泉乃流　〃

温泉をあれと六月をれほ山だ　〃

六月やアふるみほ新はれ　〃

六月も終るひるの空　〃

水を月

ふるふるも夜根ふるを多を進　〃

ふるを月はこうるを風の吹来だ　〃

ふるを月も日ハ志つゆ撃の中　〃

空天

空天はふるを数を使せん　〃

日盛

日さうも半ハ曲りて移胡瓜　〃

日盛りも撥ふ[illegible]も撥の家　〃

暑

[illegible] 臼のうれのく 日[illegible] 家夏
暑さのやうにはあらひちらし 〃
暑やうのものは仕[illegible] 〃
[illegible]ちらされはこの世界 〃

殺生河原

暑さのやうにて 石 苔 〃
[illegible]ふるふ 扇風の絵 蓑 虫
あつさのやうにはあらし 〃
根[illegible]人をこらやむ 〃
暑のやうにて [illegible]ちらす 〃

生[illegible]て [illegible] あつさ 〃
苔[illegible] 〃
麻の[illegible] 暑[illegible] 千崖

風薫

風薫[illegible]の竹の奥 蘭更
[illegible]
或人を訪ひて 〃
風薫[illegible] 本立ハ[illegible] 〃

涼

あつ涼し 風[illegible] 月の下 〃

涼風に吹り上戸はうゐ〻�
もしらぬ笠をきるゝ竹の中
伐竹　みすゝ笠して風もしし
もしらぬ雲のまうせる山
涼風も夏の白根を作れ上
日光
日をさゝえ白雲もうゑく山涼し
同中禅寺
ひゝ涼し四十八湖をうゝ風
温泉の脇
温泉もしし泉をまる脇の月

江の島
あやもしし汐うちあらもあり月
涼さおもう松待のはゝゆゝへ　義仙
もしもも根無る牛もつゝふりをて
すゝしもあるあるあ弱る涼ら
涼さも待ちもちゝめ椎ちもと
もしもも庵一本をれてあ庵
すゝしちもあるつゆうれ
大津　梅林みて
梅さくもしし赤の写る湖をうて
涼ゝうあと湖水る椎て涼し

[illegible]を見あらくも雪の内　子昇

納涼

下涼し月にうそぶく木の葉哉　雲交

夕すゝみ袖にまとふ夏の月　〃

ほたるとんぶくに散る水の音　〃

四角なうつくしさ山もすゝみ哉　〃

みすゝみ樹の花ちれば水うつる　〃

砂川や花の陰さす夕納涼　〃

ひらゝ雲ひらゝ納涼の月出て　〃

おのゝ子の向ふて張の涼しさ　春也

鈴ふしらぬ色もすみの涼しさ　〃

ゆく水は四條よりは涼しさ　〃

ひらゝ雲柳てもとる涼哉　〃

蓮ふてゆてさもうれすゝみ　〃

竹ふゝるたのゆめ結の納涼　子昇

青嵐

花ちるぬ木ゝる夏の山　嵐雪

雪峯

木ゝ花の咲くたくらの峯　春也

雲ゝ雲を入て春ゝの峯　〃

ゝゝ雲柳のちゝゝゝて雲の峯　〃

ゝ雲くゝ雲ゝ人ハあて雲の峯　〃

[illegible]

海士の[illegible]ハかくる[illegible]

白雨

夕立のあとてすゝしき[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白雨[illegible]

[illegible]

つい白な花ふとくて夕立川

清水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おうめを白し　　〃

蓮

蓮の葉も茎よハ百歩のちひ水　　〃
花ハ咲くかつてあてはなるかの
掘うけ〳〵蛙なるさしはゝ　　蒼虬
夢ちうよりの客もそく　　蓮乃花　　〃
わもしらはたちよりはうの小ちきち
ちるかつ花ものこゝろ　　〃　　〃

夕顔

ゆうかほも似合ふ人ふ里ちう　　園更
夕色や扇のつゝふ影のつはし　　〃

氣こうゝ兵雄よ月はゝ雲中ゝ
河ゝよ森見ふ森ふ　　〃
ちうたゝ〳〵ものむ谷おゝ　　〃
雄よ鳴て空ふ河ゝ　　〃
月ゝゝ空ふ雄ものゝ　　〃
嘴も里ゝ百陽ふ雄子　　〃
雨退て雄よ鳴ゝ　　〃
雄よのゝ山ゝ雨の鳴雨ゝ　　〃
山間や人法の〳〵ふ雄よ　　〃
鳴ゝ〳〵ふ雄ふ雄ふ　　〃
砂山やゝ鳴ゝめうふゝ　　〃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

麻地酒　　冬夏

[illegible]

惟子

[illegible]

雨乞

[illegible]

不二詩

天地のあつの八　[illegible]　詩

御殺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏雜

夏の夕吹俤さそふ風もうれし　冬夏

[illegible]

越の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白山[illegible]

雷[illegible]

戸[illegible]

禅林家

心もとなくあらくに暮の雨　〃

移林

落ちあつまりたるもあるもあるもあ